

祝 淡路ふくろうの郷開所15周年式典 開催



▲ 式典の様子

10月24日(日)、昨年はコロナ禍のため延期になった「ふくろうふれ愛まつり開所15周年記念式典」を縮小ながらも開催することができました。例年のように島内外の皆様はできませんでしたが来賓の皆様方から、お祝いのお言葉をいただき、改めて15年という歳月を実感したと共に、温かいお言葉をいただけたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

淡路ふくろうの郷 開所15周年記念式典 次第

- | | |
|----------------------------------|--|
| オープニング 三番叟 | 庄崎隆志 |
| 1. 開式の辞 | |
| 2. 理事長あいさつ | 法人理事長 大矢 暹 |
| 3. 感謝状贈呈 | 三根一乗 元理事
廣地タマヘ 元評議員
斉藤 勇 元評議員
淡路ふくろうの郷地域交流会
市原青空会
神戸市聴覚障害者福祉施設建設推進委員会 |
| 4. 永年入居者紹介 | 平成18年度から入居されている方(2ページ紹介) |
| 5. 永年勤続者紹介・表彰 | 開所当初からの勤続者紹介 (")
施設長表彰 10年勤続者 和田彩加・伊達美紀
特別表彰 鹿児島孝人 |
| 6. 来賓紹介・メッセージ | |
| 7. 祝電披露 | |
| 8. ふくろうまなびあい文庫⑦『経済成長期のじま者たち』お披露目 | 編集委員会代表 川満和則 |
| 9. 閉式の辞 | 入居者自治会会長 松崎恵子 |
| 10. 記念植樹 | |

今年にはコロナ過のため入居者との接触を避け、入居者は自治会長・副会長のみが式典に参加し、式典の模様を各ユニットで見られるようにライブ配信しました。苦難はチャ担当 魚崎恭行

東京パラリンピックでパワースタイル6位入賞された宇城元選手が帰郷され、淡路ふくろうの郷に立ち寄りられました。故郷からの応援が大きな力となり、父親である守さんの偉大さを実感した。今後の進退については、自分の与えられた使命を全うしたいと話されていました。

- 洲本市長
兵庫県議会議員
兵庫県議会議員
兵庫県議会議員
中川原連合町内会長
中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター運営委員長
淡路ふくろうの郷入居者家族の会会長
公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会理事長
兵庫手話通訳問題研究会委員長
兵庫県手話サークル連絡会会長
NPO法人兵庫盲ろう者友の会会長
ひょうご聴障ネット代表委員
淡路聴力障害者協会会長
手話サークルあわじ会長
手話サークル三原会長
手話サークル津名会長
淡路中途失聴難聴者の会会長
淡路 OHP の会代表

- 竹内 通弘様
永田 秀一様
原テツアキ様
浜田 知昭様
細田 和良様
山中 清様
武田 貴子様
本郷 善通様
上田 月美様
星 百合香様
井上 智文様
岡野 安雅様
斉藤 勇様
内藤 浩二様
橋詰 恭子様
廣田 葉子様
小嶋 朝子様
榎本 早苗様



▲ 洲本市市長竹内様・県議会議員浜田様

来賓紹介

開所15周年を記念して「百日紅(サルスベリ)」を植樹しました。

入居者表彰

芝田カヨ子様・勝楽佐代子様・竹邊 正晴様
松崎 恵子様・北風 章子様・藤本 紀代様

勤続職員表彰

濱田 良介・竹原 哲章・神代 雅司
太田 秋菜・竹原 寛子・酒井 裕子
西口 淳子・網島ひさみ・高田富美枝



ひとりひとりの
歴史を辿って

ふくろうふれ愛まつり「人生から学ぶ未来へのかけはし〜ふくろうと共に15年を物語る〜」の展示

は入居者一人ひとりの人生を生き
て来られた時代を知るとい内容
で年表を作成しました。家族様にも
ご協力をいただき、思い出のエ
ピソードやそれに関する写真をお
願いしました。

作成する中で、今まで知らなかつた、
聴覚障害者の歴史を詳しく学ぶ機会となり、
入居者の新たな一面をうかがい知ることができました。
これからのふくろうの郷での暮らしに活かしてゆきたいと思っています。
(生活援助係 酒井裕子)



先月号でも紹介しました竹邊さんが主役の本が完成しました。頒価一、〇〇〇円。お求めは、淡路ふくろうの郷まで。

ご結婚された年 1975年 月 日

思い出の記念旅行 年 月 日頃(不明)

旅行場所...

その他に思い出がありましたら、御自由に記入をお願いします。
例)入居者様からお聞きになった戦時中の苦労話
入居者様からお聞きになった子どもが産まれた時の喜び等

入居者氏名 石崎 國廣

前書きが閉じた事をお話したいと思います。父は昭和16年生まれ。当時は秋
戦時中で父は戦争に行くから帰らぬ人となり、父は戦時中に生まれたので、
それとも父が戦時中から帰ってきたので、その記憶が定かではありませんが、知らない
おばさんに拾われ、育てられた事です。父の両親の愛情を十分に
得られず、学校、職場での人間関係でかなりの苦労をされていた事ですが、父は母との
出会いはお見合い結婚でした。結婚するまで母の親に反対されていたが、一年後に
結婚を許してもらい、結婚することになったので、結婚後、大阪へ引越し、三人の子供に
恵まれ、とても幸せを感じていました。身が不自由の両親にとっては、子育てはとても大変
でしたが、家族の為に頑張ってくれました。仕事も休まずに働いてくれました。
仕事人間だったこともあり、家族や子育てがとれなかったり、やはり最後は自分が
頑張るといふことが多かったです。お父さん、いつも強がりでしたが、たしかに、たくさん苦労を
かけてくれた。これからは私が父を助けていこうと思います。だから、お父さん、これから元気な
いてください。

石崎國廣さんの長女様から届いた、結婚式の写真とお手紙をご紹介します。



▲当時34歳の石崎さん
今でも面影があります



ふくろうふれ愛まつり午後の部は、「ふれあい座」による忍者の舞台発表と各ユニットより入居者・職員が力を合わせた出し物の発表を行いました。月川ユニットは「箱の中身は何？」ゲームを行いました。



入居者を主役に、本人も見るとも楽しんでいただけたようユニット職員で考えました。しかし十分には準備の時間が取れません。少し不安を感じながら本番にのぞむこととなりましたが結果は大成功。

楽しそうに、あるいはおっかなびっくり、またはクールに。箱に手を入れ感触で答えを導きだそうと皆様がゲームに参加される様子はとても面白く、不思議と少し感動さえ覚えました。入居者の方々と一緒に作り上げられたことが本当に嬉しく、楽しいひと時を過ごすことができました。



▶山ユニット ボール当てゲーム

花木ユニットは「〇×クイズ」、星海ユニットは劇「昭和・平成・令和・未来へ」(写真右)各ユニットそれぞれ趣向を凝らした発表となりました。今回、初めての試みでしたが、来年にも繋がる感触をえられました。(生活援助係

中村 茂男)



▼昼食は屋台で好きなメニュー(焼きそば)を購入する長田さん



11月・12月 ふくろうの暮らし

- 11/16(火) おのころパン販売
ふくろう大学絵手紙講座
- 11/17(水) 喫茶
- 11/19(金) ふくろう大学書道講座
- 11/26(金) ふくろう大学料理講座
- 11/30(火) 手話講座
- 12/1(水) 誕生会
- 12/3(金) おのころパン販売
- 12/6(月) ふくろう理髪店
- 12/7(火) ふくろう大学演劇講座
- 12/8(水) 避難訓練



洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

手話奉仕員養成講座

テーマ「福祉制度」と「盲ろう者」について学ぶ

10月3日(日) 洲本市健康福祉館にて集中講座を開催し、島内4か所の講座で学ぶ受講



▲ペアになって盲ろう者役、介助役の体験をする受講者

者20名の参加がありました。
◆聴覚障害者の生活の工夫や利用できる制度を学ぶ

福祉制度についてセンターの吉川相談員から聞こえる人との生活の工夫の違いや聴覚障害者が利用できる福祉制度、暮らしの中での様々な工夫について話をしました。音で徐々に視野狭窄や視力が落ちる光で知らせる器具、通訳派遣制度、職場でのコミュニケーションの方法について考えました。参加者からは「制度や支援について学べた。知らないことも活用できていない人もいたため、もっと広がってほしいことや自分自身も今後こ

うした支援につなぐことができたと思う」と感想がありました。支援など学ぶことがたくさんあった」「貴重なお話をきくことができた」と感想が寄せられました。今回の講座を

「盲ろう者とは」では、まず、兵庫盲ろう者友の会の平井裕子氏から盲ろう者とは何か、生活の困難さについての



第4回社会生活教室

テーマ「ネット社会に潜む危険な事」

10月15日(金)に第4回社会生活教室を開催し16名の参加がありました。

最近はインターネットやスマホを利用したネットショッピングの機会が増えてきています。時には騙されたり被害にあう場合もあります。淡路県民局消費者センターの奥野佐織氏からネットショッピングの注意点をお話いただきました。

ネットショッピングでは思っていたものとは違うものが届いても返品送料を自己負担せねばならずよく考えて買い物しましょう、とまず注意から。また、最近ではSNSを通じて運送業者を装った連絡が入り思わず返信してしまい頻りに連絡が入るようになったり、「宝くじが当たりました」や占いサイトで「運気が

悪いのでお祓いしましょう」と多額のお祓い料を支払ってしまった被害の事例など多くの相談が寄せられているそうです。参加者からは「スマホなどでの買い物は店に行かず便利だが良いのか悪いのか分からない」と不安の声もあり、甘い言葉には騙されないなど購入する際はきちんと判断して買い物する必要があることを学びました。

淡路花博 20周年記念花みどりフェア主催 つながりフェスタ in 洲本にバザー参加して



10月23日(土)、24日(日)に洲本市民広場にて淡路花博20周年記念花みどりフェアの一環として「つながりフェスタ in 洲本」が開催され、おのころの家・おのころ屋の仲間が参加しました。

コロナ禍においてすべてのイベントが中止になる中、久しぶりに出店することになり、

中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター



☎ 656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992

利用者さんと一緒に販売を行いました。販売に備え、前日までに仲間たちが手作りした作品(カバン・マスク・猫小物・ポーチ)、クッキー、パウンドケーキなどの焼き菓子を製造し準備をしました。



両日とも風が吹き、肌寒い中での販売となり、お客様が来られるかどうか心配でしたが、利用者さんも呼び込みや接客を積極的に行い、準備していた焼き菓子を2日間ほぼ完売することができてよかったです。

(おのころ屋 山田裕美)

初参加の感想・考察 (おのころの家 職員)

- ・周囲にリサイクル販売のブースがあり、おのころの商品が高く感じられたのではないかな。
- また、イベントの内容からすると値段設定が高いものだった。



(手作り品を展示している様子)



- ・売れたエコバッグは、生地柄が可愛いものがあった。手持ち部分は肩かけの部分が輪になっているものだった。
- ・パッチワークのポシェットは、珍しいから手にして柄や縫い方などじっくり見る人が多かったが販売につながらなかった。
- ・イベントの内容で来客者を予想し、世代やその流行りに沿った商品の揃えと値段設定が必要である。
- ・商品を手にとって見ることができるように見本を出す
- ・値札を明示するかはイベント内容に合わせる。

デイだけの研修会は初めてで、おひとりずつの支援計画書の見直し、ねらいなどを振り返り確認することの大切さを改めて教えていただきました。今回だけでは、時間が足りなかったため、来年に第2回目を開く予定です。(デイサービス桜ヶ丘 竹内 美菜子)



「もっと足腰元気に!」
毎日、午前、午後と利用者の方々の身体機能維持向上を目的に体操しています。「もっと効果的な筋力アップ体操はないか」と職員から意見があり、訪問看護リハステーションジャックの作業療法士の林口さんに講師に来ていただき研修会を開きました。

神戸長田ふくろうの杜
 兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
 〒653-0836 電話：078 798 7940
 FAX：078 798 7941

開所一年を経て、今

神戸長田ふくろうの杜も、昨年の11月21日(日)に開所式をし、早や1年を迎えようとしています。

12月からは、それまでの神戸ろうあハウスでの就労継続支援B型事業、生きがい対応デイサービス、また、相談支援事業に加え、新たにB型事業としての「ふれあい食堂」「生活介護」「地域密着型通所介護(介護保険)



▲ 生きがいデイでの様子



▲ 放課後デイでおやつ作り

「サービス」「放課後等デイサービス」と、聴覚に障害のある子供から高齢までの「居場所」として、また、1階は地域の人も気軽に来ていただける食堂としてスタートしました。

人工川「せせらぎ」のお掃除や防犯パトロール、市花壇の水やりなど地域の活動に参加したり、淡路の野菜を安価で販売したりと地域の皆様に活用していただける施設を目指して日々邁進してきました。皆さんの支えのおかげで神戸長田ふくろうの杜での今日があります。

しかし、運営の面では利用者数の伸び悩みなど、皆さんの期待に添え切れていない現状があります。それをどう解決していくのかを苦慮しながら、併せて利用者支援の質を落とさないことを念頭に頑張っております。

社福の理念であります「ひとりひとりを大切に共に生きる」を実践のモットーに、職員全員がそれぞれの持ち場で励んでいます。運営の面では、「一周年だ！」と諸手を挙げて喜び難いですが、何事もなく無事に一年を迎えることができたことは嬉しい限りです。何よりも改めて建設運動をさせて下さった皆さんに感謝する所存です。
 (神戸長田ふくろうの杜 施設長 眞木 崇江)

初めての避難訓練

10月2日(土)午後、避難訓練を実施しました。実は、子ども達が参加出来るよう夏休みに企画していました。雨が延期、その後も天気恵まれません、4度目の正直で実現出来ました。



▲ 避難訓練が終わり、反省会
 利用者からの質問もありました

御礼

去る10月24日、淡路ふくろうの郷開所15周年記念式典を開催したところご来臨の栄を賜りましたことを心から厚くお礼申し上げます。記念すべき日を迎えることができましたのも当法人に対しますご理解ご支援の賜物と感謝いたしております。

幾多の困難を乗り越え、さらに昨今の福祉を取り巻く厳しい社会情勢に立ち向かうべく、職員一丸となつて力を尽くし、誠心誠意「ひとりひとりを大切に、ともに生きる」理念の実現に邁進する所存でございます。今後ともご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。淡路ふくろうの郷 施設長 狭間 孝

当日は水消火器で消火訓練のあと、1階食堂から出火の想定で、各階への伝達、通報、避難、点呼、と初めての避難訓練としてはスムーズに、4分弱で全員が避難出来ました。施設外への避難が難しい人はベランダへ避難しました。

訓練にご協力いただいた地域におられる元消防署員の方から評価や、『避難時にはエレベーターを使わない』『トイレに入っている時に火事になったら途中でやめて出てくる』など注意することも教えていただき、今後の避難訓練にも生かしていきたいです。